

メディカル チェック



内科・泌尿器科

のはなし

早期発見・早期治療！泌尿器科の腫瘍の話／その104

春から夏は健診とドックの季節！その③どんな病気をターゲットに？

隔月連載のお話、今回は、病気の早期発見・早期治療に重要な健診とドックについての3回目です。

前々回は、最新の死因別死亡率を確認し、その43%を占める三大疾病、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患をターゲットとして、健診・ドックを受けることが重要であると

お伝えしました。前回は、死亡率の22%を占める心疾患と脳血管疾患について、いずれも『動脈硬化』を原因として起こる場合が多く、内臓肥満に加え、高血圧症、脂質異常症、糖尿病が組み合わさった、いわゆる『メタボリック症候群』がその危険因子であり、この予防と早期発見・治療こそが、死亡率低下のポイントであることをお話ししました。

では『メタボリック症候群』早期発見のため、私たちは何をすれば良いのでしょうか？ その第一歩は『特定健診』の受診です。国は、2008年4月、メタボリック症候群該当者と予備軍の減少を目的に、『特定健康診査・特定健診』を開始しました。これは、法律により医療保険者に実施が義務付けられた、40歳以上75

は2009年から健診事業を開始していますが、開始当初から、ドック基本メニューの1つに『メタボドック』を設定し、さらに詳細な採血、超音波やCT検査を加え、生活習慣病を含めた幅広い病気の発見ができるよう対応しています。ここ最近、将来の病気の発症リスクを予測する『リスク健診』も登場。脳・心筋梗塞発症リスクを予測する『LOX・index検査』も用意しています。ぜひ、ご活用ください。

これらの検査により、前回お話しした『メタボリック症候群の診断基準』にあてはまった方は、医療機関を受診して、治療を開始することが重要です。また、診断がついた方のみならず、診断基準のいくつかで異常が確認された予備軍の方には、その治療と一緒に、日常生活習慣の見直しを推奨されています。

特に、過食と運動不足の解消が基本戦略とされていますが、効果的な対応策は、自力では難しい面もありますので、医療保険者が提供している『特定保健指導』に参加することが、生活習慣見直しの最善策と言えます。

緊急告知！毎年、当院主催で開催しております『イオンシネマ市民講演会』、7回目となる今年は、いつもより少々遅くなりますが、11月17日（日）開催と決定、現在準備中です。詳細が決まり次第、本誌やライナー紙上、当院ホームページでご案内します、ご期待下さい！

北彩都病院 泌尿器科
癌診断・治療センター長
徳光 正行
医学博士、日本泌尿器科学会専門指導医、日本がん治療認定医

北彩都病院 宮下通9
永山腎泌尿器科 永山2ノフ
クリニック 03-6646-1000